

### ◇牧師室から◇

今年の特別伝道集会は「いのちの電話」の開設当初から中心的に関わってこられた斎藤友紀雄先生を講師にお招きした。「いのちの電話」はイギリスから始まり、今や旧共産圏諸国、そして中国までも広がっている。人間の心はどんな体制でも病むのである。

かつては家庭や地域社会が「こころの危機」を支える機能を果たしていた。それが徐々に崩壊し、電話という顔も名前も知られないで済む匿名性によって「支え」を見出そうとする要求へと変わっている。「いのちの電話」はそれに答え、七千五百人のスタッフを持って、最も深い叫びやうめきを受け止める、無くてはならない働きをしている。

人は誰でも、心のバランスを失い「危機」に遭遇する。その時、専門の治療や福祉制度は有効であるが、限界もある。素人だからできる「支え」がある。先生は、この素人の働きによる有用性を力説された。私はマルチン・ルターの

「万人祭司」論を思った。誰でも誰かを「執り成し・支え」ることができる。それは逆に、私たちは誰かに「執り成され・支えられ」ているということである。そこに真の出会いがある。先生は、この人間関係において、固定的な価値観を押し付けるのではなく、ありのままの隣人を受け入れることの大切さを語られた。

礼拝では、大祭司イエス・キリストから説教された。イエス・キリストは「真の神」、「真の人」として、天と地を結び、執り成して下さっている。その執り成しは、ご自身が「激しい叫びをあげ、涙を流し」て苦しまれたから、人間の苦悩と共感、共鳴し、重荷を担ってくださる執り成しである。どんなに強く、立派に見える人でも心に深い苦しみを持っている。しかし、その苦しみが同じ苦しみを持つ人を癒す力となる。救いとは、問題の解決ではなく、共有してくれる人を得ることであると語られた。

イエス・キリストの執り成しがあるから、自分の弱さを告白し、隣人の痛みも共有できる柔らかい心を持ちたいと慰められ励まされた。

## 週 報

1998年11月1日 降誕前第8主日

永眠者記念礼拝

巻19

31号

1998年度 教会主題

「恵みの座に近づこう」

聖句 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

ヘブライ人への手紙 4章16節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集會を守る。
  2. 一人が一人を伝道する。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋吉隆雄